

晴耕雨読 52

発行：株式会社 建設プロジェクトセンター
 建設コンサルタント・地質調査 解析・測量全般・
 ・補償コンサルタント登録
 〒869-1234 【※本社が北区弓削に移転しました】
 熊本県菊池郡大津町引水 215-1 (技術研究所)
 本社：熊本市 / 八代支店 / 合志営業所
 TEL：096-293-4400/FAX：096-293-4885
 E-mail：kenpro@muc.biglobe.ne.jp

新しい年を迎え、新春にふさわしい春の四字熟語を選びました。
 (しゅんぷうとくい)「春風得意」(しゅんぷうとくい)とは仕事や出世にこれといった問題がなく、順調なこと。望みが叶うことを春の風の心地よさにたとえた言葉です。

Vol.52 Feb 2019 seikouudoku

正月飾りも取れ、慌ただしい生活が戻ってまいりました。
 皆様におかれましては如何おすごしでしょうか？



摩利支天(まりしてん)
 上図は、菊池郡大津町真木地区の摩利支天像です。今年は猪年。勝負の年です!!

熊本の地名
 大津町の真木(まき)と引水(ひきのみず)の不思議な関係。阿蘇北外輪西方に位置する処に真木という古い集落があります。近くは外輪山の裾野で古代官道の二重(駅家)があり「牧」とも呼ばれる。この真木に猪に乗った天童女の摩利支天があります。さらに外輪山の西南方の猪郷谷から水を引いて発達した集落が引水。古代より堤を作り田畑で稲作を行ったとのこと。そこが私が生まれ所。H/N

藪ノ内初釜
 おもてなしは、言葉にすれば「相手を察する・思いやる」ということ。お茶のお稽古でお点前の稽古がありますが、これは動作を覚えるだけでなく、お迎えするお客さんに心を配らせ、その時の最高のおもてなしをする練習でもあります。これを受けるお客さんも、見稽古として亭主の所作から、気配りを受け感謝する練習です。思ってもないことを成すことが「おもてなし」H/N

南関(なんかん)突破!
 南関町は古代から、交通の要所として関所や番所が設けられた国境の町です。南関(なんかん)と難関をかけてお守りが作られています。H/N



春

私たちがおすすめスポット

#01 はなたれ小僧様 #02 二つの高千穂



肥後の南関から国境を超えるとそこに筑後の北関(きたのせき)あり。マンガ日本昔話でも出てくる民話「はなたれ小僧さん」発祥地である、福岡県みやま市にユニークな地蔵さまを見つけました。むかしむかし貧しい夫婦が小僧様を大事に育てると村一番の大金持ちになりました。しかし、小僧様を手放した途端に、元の貧乏暮らしに戻った民話をもとに作られた石造だそうです。H/N



正月に鹿児島県北東部の霧島神宮へお参りました。参道はたくさんのお店で賑わっていました。『天照大神』の孫の「ニニギノミコト(迺迹芸命)」が降り立ったとされる天孫降臨の地として知られる高千穂。「霧島神宮」は、その高千穂峰と火常(御鉢)峰の間に社殿が造られたのが始まりとされ、「ニニギノミコト」を祀るお社です。混同しやすいのは宮崎県北部の高千穂町の天岩戸との関係です。天孫降臨の地を巡る「二つの高千穂」問題は江戸時代の本居宣長の時代から議論があり、多くの解釈があるようです。N/S

#03 そうだったの(から)し蓮根の誕生

からし蓮根が作られていたのは、寛永9年(1632年)。肥後藩主細川忠利公のころ。由来書によると側近の者が病弱だったお殿様を丈夫にしようと増血剤として薬効のあるレンコンに栄養価の高い味噌と和辛子を油で揚げたのが始まり。当時は、お殿様だけの食べ物で門外不出の珍味として庶民の口に入るようになったのは、明治に入ってからだだったそうです。I/O



#04 いつの時代も縁担ぎか?



昔おみくじは、後継者選びや、国の祭事など重要事項を決定する際、神様の御声を聴くための道具とされていたそうです。個人の吉凶を占うようになったのは、鎌倉時代初期からで、ついつい大吉が出るとニコッと、凶だがつくり肩を落としがちですが、おみくじに何が書かれているか、自分の良いように読みとることが大切ですね。T/B

身近な環境への思い

Human Architectur

しいたけ栽培の話

昨年、しいたけ菌打込みホダ木をいただきました。ホダ場は畑、ホダ木(原木)は土、菌はタネにあたります。ホダ場に適しているのは、「杉の雑木林のような、直射日光のあたらない風通し良い日陰」だそうです。宅地内での「ホダ場」は、南向き又は南東向きで日陰度の良い庭木の下で風通しも良く、雨の良く当たる場所が良いようですが、我が家にはそんな余裕のある場所は無いので、前年度は南西生垣(写真)に据えましたが、場所も悪いのかナメジに先に食べられています。A/T

飛行機撮ったぞ!

益城町と菊陽町にまたがる標高193mの高遊原台地に3,000mの滑走路を有する熊本空港は、年間300万人以上が利用する空の玄関口です。12月20日から1月10日頃にかけての冬の熊本空港では、滑走路線上に夕陽が沈むため、離陸する飛行機と夕陽を重ねて撮影できる絶好の場所となっています。17時を過ぎる夕暮時には約70人のアマチュアカメラマンがそれぞれの写真構図を期待しながら、一瞬のシャッターチャンスを逃さないで待機しています。17時20分と17時30分発の2便に、新年の夢をいっぱい乗せて飛び立つ飛行機に思いを寄せながらカメラのシャッターを切りました。B/I

小梅

我が家の梅の木は2.5本。一番早いのは小梅。新年早々花を付けます。もう一本は昨年紹介した仁平梅。それと杏子(あんず)。近所からいただいたもので、ずっと梅と思い込んでいたので0.5本扱い。あるとき種を割って中身を食べて判りました。杏仁は中華料理では「あんじん」ですが昭和の角川辞典は「きょうじん」と言っています。スケッチは小梅。M/T

OK Google

声で天気や時刻を尋ねると、音声で答えてくれるスマートスピーカー。今回家電リモコンという装置を組み合わせ、「テレビをつけて」などと話しかけると、リモコンを使わず操作できる仕組みを作りました。この装置で、帰宅前にスマホからエアコンを付けることもできて、ちょっとだけ未来っぽい感じがします。昔、映画で見ていた光景が現実になってきているのを感じます。K/S

身近な土木文化への思い

Civil Engineering

高瀬眼鏡橋(たかせめがねばし)



写真は県北玉名の高瀬裏川水際緑地公園に架かる高瀬眼鏡橋です。1848年(嘉永元年)に架設された二連アーチの石橋は、江戸時代に農産物等の集散地(港町)として物品の運搬等に利用。石高欄には、当時を物語る重量物が衝突した痕跡のような古傷が見られました。現在は県指定重要文化財になっており、観光だけでなく通学や通勤等にも利用されているようです。あの金栗四三も走ったかな? T/M

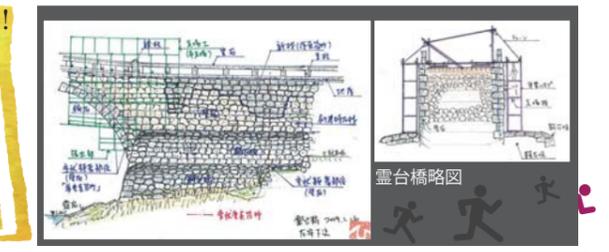
土木の神様と同じ誕生日



昨年、第一子が生まれ誕生日(7月25日)が清正公と同じでしたので、加藤神社へ初詣に参りました。周辺は熊本城の復旧工事中で、復旧には20年~30年かかる見通しです。災害復旧は原形復旧が原則ですが、平成28年熊本地震で被災した箇所多くは1889年の熊本地震で被災した箇所と同じ個所で起きており、原形復旧だけでは同じ被災を繰り返す可能性が高いため、「従前の効用を果たす」対策も必要ではと考えます。K/N

道 道の価値を思う

この地球上に人々が住み着き、気の遠くなる月日を重ね、自然と向き合いながら時代の営みの中で生き抜き、狩の道、塩の道、交流の道ができた。熊本では平安中期(約1000年前)には延喜式官道が縦横にでき、近世では参勤交代や駄賃付けの道などの街道や往還ができた。直近では、平成24・28年の水害や地震を経験から再び同じ場所の交通の結節点に防災・緊急医療等の多目的に機能を有する道が必要とされている。年を重ねると道の価値を考えるようになった。熊本城を基点とした札の辻、里程木、木製案内板を上略図に示す。



猪だよ



後記：熊本地震から2年半。復興への足跡が見え始めました。12月16日には九州中央自動車道のうち、小池高山ICから山都中島西ICまでの10.8kmが開通。復興のシンボルであり、命の道でもあります。今後も皆さんへ地域復興を中心に紹介してまいります。この晴耕雨読は社員の協力で発信しています。